

解答

- 一 問一 イ
- 問二 一
- 問三 その場所に立ち寄らないでそのまま通り過ぎた
- 問四 背表紙をざっと見てどんな本があるのかを確認した。
- 問五 夜になると大型書店などは閉店してしまうから。
- 問六 深夜に町を徘徊し、古書店を巡る姿が周囲からは不気味に見えるだろうと思ったから。
- 問七 a オ b ウ c イ
- 問八 お互いの価値観が一致して馬が合っているということ。
- 問九 従
- 問十 ア
- 問十一 本質をく化する〔もの〕
- 問十二 芸人はサッカー選手より劣るといふ考え方。
- 問十三 以前に比べて自分が本を愛せなくなったのは、本が変わったからではなく、文学者の中に排他的な思想を持つ鈍い感性の書き手がいると知り、自分が書店を恐ろしく感じてしまったということ。
- 問十四 筆者は、小説を書くようになって書店を恐ろしく感じてしまうようになり、本に申し訳ない気持ちでいるので、若い頃のように書物から新たな刺激や大きな感動を得られるようになりたいということ述べていると思う。
- 二 問一 アヤトリの高度な技
- 問二 イ・エ
- 問三 イ
- 問四 B↓D↓C↓E
- 問五 川の流れが速いので材木でも定期でもあつと言つ間に流されてしまうこと。
- 問六 母親が定期をなくさないようにと紐を編んでくれたのに、買ったばかりの高价な定期を自分の不注意で川に落ちてなくしてしまい、母に申し訳なく思うと同時に、自分を情けなく思っている。
- 問七 エ
- 問八 1 イ 2 ウ 3 ア
- 問九 I オ II ア III ウ
- 問十 前からは汽車、後ろに戻るには手遅れ、川に飛び込むには高すぎて、枕木にぶら下がるしか汽車を避ける策がなかったということ。
- 問十一 ウ